

奥羽大学報



令和5年度 卒業証書・学位記授与式

目次

奥羽大学の理念・目的 / 令和5年度卒業証書・学位記授与式 祝辞 / 告辞 (歯学部)	1
告辞 (薬学部)	3
答辞 (歯学部)	4
答辞 (薬学部)	5
2023年度学位授与論文題名一覧	6
2023年度卒業記念贈呈式 / 歯学部 第47期 謝恩会 薬学部 第16期 謝恩会 / 第74回奥羽大学歯学会の開催	7
SD研修会 / 能登半島地震被災地における災害医療支援活動への協力 学長裁量経費の公募	8
自著を語る / 本多先生の労作、図書館の新书推荐コーナーに！	9
附属病院 自営消防訓練 / キャンパスの風景	10
ちょっと寄り道 / 歯学部卒業生の教授就任	11
同窓会だより / 同窓生のひろば	12
人事	14

176

通算 第301号

奥羽大学の理念・目的

理 念

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

目 的

奥羽大学は、教育基本法（昭和22年法律第25号）並びに学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部のその目的は、次の各号のとおりとする。

1. 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する
2. 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成する

令和5年度卒業証書・学位記授与式

3月10日(日)、卒業証書証書・学位記授与式が、本学第2講義棟 第1講義室において挙行された。

式典は、多数の来賓のご臨席を賜り、保護者や教職員が参列し、厳粛に進行した。来賓を代表して学校法人晴川学舎大桶志延理事長が祝辞を述べられ、清浦有祐学長が告示を贈った。また卒業生を代表して歯学部歯学科の佐藤駿さん、薬学部薬学科の杉谷優佳さんが、それぞれ答辞をした。

歯学部歯学科63名、薬学部薬学科121名に卒業証書ならびに学位記が、また大学院修了者14名に歯学（博士）の学位記が授与された。

祝辞

理事長 大 桶 志 延

卒業証書並びに学位記を手になされます皆さんと、ご臨席なされましたご父母各位に、心よりお祝いを申し上げます。本日は、誠にありがとうございます。

皆さんにとりまして、今日までの長い間には多くの事を経験なされたことと思います。限られた時間では到底語りつくせぬ程の数多くの経験は、「思い出」という一括りの言葉にとどまることはなく、必ずや皆さんの人生に豊かな実りを齎す良質な肥料となってくれることを信じております。

とりわけ最後の学生生活である本学で、皆さんが「物事の本質を捉える大切さ」を学んで行っ

てくれれば、私どもにとってこれ以上の喜びはありません。

何事も一朝一夕にできることばかりではありませんが、困難が全てでもありません。今、自分の前になすべきことがあれば、できぬ心配をするよりは、できたときの喜びを心に描いてやってみることで。失敗は成功の母、何度でも立ち直る努力を厭わなければ、挫けることは恥にはなりません。今日の仕事を明日に延ばさず、今日の仕事としてやり遂げることで。一日一日実行し、繰り返し積み重ね続けていく先に、新たな可能性が生まれ目標は達成されます。

これから後、皆さんが常に良識と善意を備え、社会から望まれる立派な医療人となって、地域医療に貢献なされ、世界平和に寄与していただくことを希っております。

結びに、本日御臨席されました皆々様の御健勝を祈念して祝辞といたします。

告辞（歯学部）

学長 清 浦 有 祐

本日、ここに2023年度卒業証書・学位記授与式を挙行できますことは、本学にとって大きな喜びであります。学士の学位を得て卒業される歯学部歯学科63名の皆さん、誠にありがとうございます。皆さんをこれまで支えてくださったご家族、保護者の方々にもお祝いを申し上げます。

また、本日の式典を挙行するにあたり、ご臨席を賜りました学校法人晴川学舎理事長大桶志延

先生を始めとしたご来賓の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

皆さんは2020年からの4年間、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行によって、学生生活に大きな制約がかかり、自粛生活を送る中でも自ら勉学に励み、共用試験CBT、そしてOSCEに合格され、卒業の日を迎えられました。このことに心から敬意を表します。苦難を乗り越えたことは、皆さんにとって大きな自信となっていることでしょう。

奥羽大学は、1972年に創立者の故影山四郎先生が東北初の歯科大学である東北歯科大学として開学しました。当時の東北地域は、歯科医師が非常に少なく、歯科医療を受けることができない方が多数おりました。このような状況を打破するために、影山四郎先生は周囲の反対の声にも動ぜず、確固たる信念に基づいて歯科大学を開学されました。その後、東北歯科大学は1986年には大学院を開設し、1988年に名称を奥羽大学に変更し、2005年には薬学部を開設しました。以来、本日で歯学部は4,445名、薬学部は1,302名の学士を、大学院は427名の博士を世に送り出すことになり、奥羽大学は日本有数の医療系大学としての地位を確立しています。

我々奥羽大学の教員一同は、創立以来の理念である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する」ために信念を持って皆さんの教育にあたってきました。このことは、我々の誇りです。そして、卒業生全員の自信につながるものです。社会に出て何か困難なことに直面した際は、皆さんは日本の医療系大学の中で最も熱意を持った教員に教育を受けたことを思い出してください。必ず解決することができます。

現在の日本は、「少子高齢化社会を切りひらき、誰もが夢を追求できる社会、高齢になっても健康の不安なく、人生を楽しめる社会の実現」を目指しています。そして、これを実現するための国家目標として、「2040年までに主要な疾患を予防・克服し100歳まで健康不安なく人生を楽しむためのサステナブルな医療・介護システムを実現」することがあります。当然のことながら、歯科医師の参加が無ければ、この計画は実現できません。すなわち、皆さんはこれからの日本社会の発展になくてはならない人なのです。

しかし、どれだけ優れた才能に溢れた歯科医師になっても本学の理念である「人間性豊かな人材」という原点を忘れてはなりません。「人間性豊かな」ということは、「人としての徳」を持つことです。そのために、人は志を持ち、清廉な心を持たなくてはなりません。ぜひ、皆さんは志を立てて、それを必ず達成させてください。私はこれまでに多くの医療人や研究者の方々と接してきましたが、その人の成功を決定するのは技術の高さや知識の多さではなく、その人の人柄であり、「徳」であると痛感しています。そして、皆さんが卒業後もさらに高い医療技術や歯学の先端的知識を身に付けなくてはならない理由は、そのことを他人に自慢するためではありません。それは病に苦しむ方々を助けるためのものであり、皆さん自身の徳を高めるためのものです。

私がいつも心に刻んでいる言葉を贈らせていただきます。それは、『貞観政要』という書籍に出てくる「三つの鏡」の中の「人の鏡」と「銅の鏡」です。まず、「人の鏡」とは、他人の厳しい言葉を受け入れて自分自身を変革することの必要性を意味します。これからの社会生活の中で、上司、先輩や友人から様々な意見を投げかけられることがあるかと思います。その際は、素直にその言葉を受け入れて自分を見つめ直してください。そして2つ目の「銅の鏡」とは、鏡に自分を写した時に常に明るく元気な顔をしていることを確認することです。

東北地域の歯科医療を充実、発展するために影山四郎先生によって創立された奥羽大学歯学部の卒業生は、現在、東北地域はもちろんのこと、全国各地で歯科医療を担う中心的な人材として活躍しています。そして、今まさに海外でも歯科医学の臨床と研究に従事している卒業生がおります。

奥羽大学歯学部は福島の地にしっかりと足を据えながらも、世界に向けて常に先端的な歯科医学・歯科医療を発信していくことを約束します。

卒業生の皆さんがこれから歯科医師として素晴らしい人生を歩んでくれることを願って、告辞とさせていただきます。

告辞 (薬学部)

学長 清浦有祐

本日、ここに2023年度卒業証書・学位記授与式を挙げていただけますことは、奥羽大学にとって大きな喜びであります。学士の学位を得て卒業される薬学部薬学科121名の皆さん、誠におめでとうございます。皆さんをこれまで支えてくださったご家族、保護者の方々にもお祝いを申し上げます。

また、本日の式典を挙げるにあたり、ご臨席を賜りました学校法人晴川学舎理事長大桶志延先生を始めとしたご来賓の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

皆さんは2020年からの4年間、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行によって、学生生活に大きな制約がかかり、自粛生活を送る中でも自ら勉学に励み、共用試験CBT、あるいはOSCEに合格され、卒業の日を迎えられました。このことに心から敬意を表します。苦難を乗り越えたことは、皆さんにとって大きな自信となっていることでしょう。

奥羽大学は、1972年に創立者の故影山四郎先生が東北初の歯科大学である東北歯科大学として開学しました。当時の東北地域は、歯科医師が非常に少なく、歯科医療を受けることができない方が多数おりました。このような状況を打破するために、影山四郎先生は周囲の反対の声にも動ぜず、確固たる信念に基づいて歯科大学を開学されました。その後、東北歯科大学は1986年には大学院を開設し、1988年に名称を奥羽大学に変更し、2005年には薬学部を開設しました。以来、本日で薬学部は1,302名、歯学部は4,445名を、大学院は427名の博士を世に送り出すことになり、奥羽大学は日本有数の医療系大学としての地位を確立しています。

我々奥羽大学の教員一同は、創立以来の理念である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する」ために信念を持って皆さんの教育にあたってきました。このことは、我々の誇りです。そして、卒業生全員の自信につながるものです。社会に出て何か困難なことに直面した際は、皆さんは日本の医療系大学の中で最も熱意を持った教員に教育を受けたことを思い出してください。必ず解決することがで

きます。

現在の日本は、「少子高齢化社会を切りひらき、誰もが夢を追求できる社会、高齢になっても健康の不安なく、人生を楽しめる社会の実現」を目指しています。そして、これを実現するための国家目標として、「2040年までに主要な疾患を予防・克服し100歳まで健康不安なく人生を楽しむためのサステイナブルな医療・介護システムを実現」することがあります。当然のことながら、薬剤師の参加が無ければ、この計画は実現できません。すなわち、皆さんはこれからの日本社会の発展になくてはならない人なのです。

しかし、どれだけ優れた才能に溢れた薬剤師になっても本学の理念である「人間性豊かな人材」という原点を忘れてはなりません。「人間性豊かな」ということは、「人としての徳」を持つことです。そのために、人は志を持ち、清廉な心を持たなくてはなりません。ぜひ、皆さんは志を立てて、それを必ず達成させてください。私はこれまでに多くの医療人や研究者の方々とは接してきましたが、その人の成功を決定するのは知識の多さではなく、その人の人柄であり、「徳」であると痛感しています。そして、皆さんが卒業後もさらに薬学の先端的知識を身に付けなくてはならない理由は、そのことを他の人に自慢するためではありません。それは病に苦しむ方々を助けるためのものであり、皆さん自身の徳を高めるためのものです。

私がいつも心に刻んでいる言葉を贈らせていただきます。それは、『貞観政要』という書籍に出てくる「三つの鏡」の中の「人の鏡」と「銅の鏡」です。まず、「人の鏡」とは、他人の厳しい言葉を受け入れて自分自身を変革することの必要性を意味します。これからの社会生活の中で、上司、先輩や友人から様々な意見を投げかけられることがあるかと思います。その際は、素直にその言葉を受け入れて自分を見つめ直してください。そして2つ目の「銅の鏡」とは、鏡に自分を写した時に常に明るく元気な顔をしていることを確認することです。

東北地域の歯科医療を充実、発展するために影山四郎先生によって創立された奥羽大学薬学部の卒業生は、現在、東北地域はもちろんのこと、全国各地で活躍しています。

奥羽大学薬学部は福島の地にしっかりと足を

据えながらも、世界に向けて常に先端的な薬学研究成果を発信していくことを約束します。卒業生の皆さんがこれから薬剤師として素晴らしい人生を歩んでくれることを願って、告辞とさせていただきます。

答辞 (歯学部)

卒業生代表 佐藤 駿

早春の心地よい春風が郡山を駆け巡り、待ちわびた春の訪れを告げる今日この頃、私たちは卒業の日を迎えることができました。

本日は、このように晴れやかな卒業式を挙行していただき、卒業生一同心より御礼申し上げます。

また、理事長先生、学長先生をはじめ、ご来賓の先生方、関係各位の皆様のご臨席ならびに激励のお言葉を賜り、誠にありがとうございます。

入学してから今日までの日々を振り返りますと、長いと思われた六年間はあっという間に過ぎていき、何ものにも代えがたい一生ものの経験と学びを得ることができました。

桜が爛漫と咲き誇った六年前の四月、私たちは大きな期待と希望を抱き、奥羽大学に入学いたしました。勉強やサークル活動に励み、充実した大学生活を過ごしていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、当たり前だった生活が突如として一変してしまいました。様々な制限を受ける中、先の見えない現実には不安を感じていました。しかし、諸先生方や大学職員の皆様の迅速かつ適切なお対応、志を同じくする仲間の温かい支えにより、私たちは、今まで経験したことのない事態を乗り越えることができました。

在学中、諸先生方には、講義や実習を通して優しく、熱心に教えていただき、未熟な私たちを導いてくださいました。また、お忙しい中であっても、私たちの質問や悩みごとに対して親身に寄り添い、時に厳しく導いていただけたことは、感謝してもしきれません。

大学職員の皆様には、私たちが実りある学生生活を送れるようご尽力いただきました。卒業生一同心より感謝申し上げます。

そして、一番近くで温かく見守り続けてくれた家族の支えがあったからこそ、私たちは今日、

卒業の日を迎えることができました。誠にありがとうございます。

本学の自然豊かなキャンパスにおいて、苦楽を共にし、切磋琢磨しあった友との日々は、かけがえのない時間となりました。そのためか、いざ卒業の日を迎えようと、私たちは将来への第一歩を踏み出せることに喜びを感じる一方で、一抹の寂しさを感じずにられません。

今日、私たちは奥羽大学を卒業し、それぞれが自分で決めた道を進んでいくこととなります。その道すがら思い通りにいかず、壁にぶつかることがあるかもしれません。しかし、本学で積み重ねた経験や知識は、いかなる逆境をも乗り越える道標となり、輝かしい未来へと導いてくれるはずで。そして、日進月歩で変化する医療に真摯に向き合い、社会のさらなる発展に貢献していくとともに、「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師」という本学の教育理念を胸に刻み、これからも日々精進していく所存です。

本日までご指導くださいました諸先生方や大学関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、諸先生方やご来賓の皆様の一層のご健勝と、奥羽大学の益々のご発展を心より祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。



答辞を述べる佐藤駿さん

答辞(薬学部)

卒業生代表 杉谷 優 佳

肌をさすような冷たい外気が和らぎ、吹く風にも穏やかな春の訪れを感じる季節となりました。この佳き日に、私たちはこの学び舎を巣立ち、それぞれの未来へと歩み始めます。

本日は、理事長先生、学長先生をはじめ、ご来賓の先生方、関係各位の皆様のご臨席のもと、素晴らしい式典を催していただき、卒業生一同心より感謝申し上げます。この日を迎えることができたこと、その喜びを皆様と分かち合えることをとても幸せに思います。

卒業という節目を迎える今、私たち卒業生の胸には、さまざまな思いが交錯していることと、思います。6年前の春、美しい桜が咲き誇っていたこの学び舎で、これから始まる学生生活に胸を躍らせながら迎えた入学式が今でも鮮明に思い起こされます。

振り返ると、何事もなく順調に学生生活を送っていた私たちですが、2年生の冬に突如出現した新型コロナウイルスは世界中で猛威を振るい、私たちの日常生活は一変しました。未知のウイルスがもたらす恐怖や不安で社会全体が押しつぶされそうになりながらも、革新的なワクチンの開発や医療従事者の懸命な働きによって、日常生活は漸く以前の状態まで戻りつつあります。しかしながら、今度は誰もが新しい年の平穏と多幸を願った元日に、石川県の能登半島を大地震と津波が襲いました。全国から医療チームが能登へ派遣され、被災された方々の命と健康を守るために活動しています。このように、私た

ちの学生生活は、「人に寄り添い、信頼される、豊かな人間性と優しさを備えた医療人」とは何か、考える日々の連続だったと言っても過言ではありません。

また、これらの出来事は、私たちが日常的に感じている幸せは当たり前ではなく、奇跡のような一瞬一瞬の積み重ねだと気づかせてくれました。

本日、私たちは奥羽大学を卒業し、それぞれが選択した道を歩み始めますが、いずれの道も決して平坦ではなく、想定外の出来事が待ち受けていることでしょう。しかし、どんなときにもこの学び舎で得た知識や人との繋がりを生かし、困難を乗り越え、より良い未来を切り拓いていくことをここに決意いたします。

最後になりましたが、未熟な私たちをご指導くださいました先生方、学生生活を支えてくださった職員の皆様、支え合い切磋琢磨した友人、いつも暖かく見守りここまで大切に育ててくれた家族に、改めてお礼を申し上げるとともに皆様のご健康と奥羽大学の輝かしい発展を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。



答辞を述べる杉谷優佳さん



薬学部卒業生

2023年度学位授与論文題名一覧

学位取得者	専攻・講座	論文題名
安部 将太	生体管理学	Analysis of oxygen concentration in the oral cavity during intravenous sedation with intranasal oxygen administration for dental treatment.
内田 光洋	生体材料・医用工学	硬性の異なる歯科用セメントの支台歯ごとの併用がプロビジョナルブリッジの接着強さへ及ぼす影響について
小汲大二郎	生体管理学	Managing general anesthesia for low invasive dental procedures while maintaining spontaneous respiration with low concentration remifentanyl : a cross-sectional study
笹谷 哲郎	顎顔面口腔矯正学	外科的矯正手術前後の治療における短期的な睡眠動態変化
佐藤 光	口腔生理・生化学	Effect of vasoconstriction by dexmedetomidine in mandible of rat : histomorphometric analysis
佐藤 璃奈	生体管理学	Change of general anesthesia method and improvement of post-operative nausea and vomiting
西 祐也	顎口腔外科学	味覚感受性に対する味覚施行および生活習慣との相関
赤穂 麗子	口腔感染症学	Synergistic effect of TLR2 ligands and alendronate on proinflammatory cytokine production by mouse macrophage-like RAW-ASC cells is accompanied by upregulation of MyD88 expression
藤田 憲仁	口腔感染症学	Candida glabrataのNOD/ShiJic-scidJclマウスに対する炎症性サイトカイン産生誘導能
渡部 議之	口腔感染症学	Alendronate augments lipid A-induced IL-1 β release by ASC-deficient RAW264 cells via AP-1 activation
五日市純宏	口腔機能回復学	下顎遊離端欠損に対するインプラント上部構造の設計が周囲組織に及ぼす影響 —三次元有限要素解析による生体力学的検討—
下條 知信	生体材料・医用工学	ウシ下顎中切歯における象牙質の異方性と機械的特性の解析—象牙細管の走行と機械的特性の関連について—
島本 英治	生体材料・医用工学	トータルエッチング法を併用したワンステップセルフエッチングシステムにおけるエッチング前処理時間の接着強さへの影響
山崎 厚作	歯周病学	インプラント周囲軟組織の形態的特徴とインプラント周囲炎の関連を調べる縦断研究

2023年度卒業記念贈呈式

3月7日(木)、2023年度卒業記念贈呈式が午後1時より学長室にて行われた。歯学部代表の根本将広さん、薬学部代表の落合華菜子さんから、卒業記念としてそれぞれ10万円が贈呈された。清浦有祐学長より、「後輩および大学のために大切に使用させていただく」との謝辞があった。



歯学部贈呈式



薬学部贈呈式

歯学部 第47期 謝恩会

3月10日(日)、卒業証書証書・学位記授与式後、午後6時30分より、郡山ビューホテルアネックス3階雲水峰の間において、歯学部第47期謝恩会が開かれた。

大桶志延理事長、清浦有祐学長、瀬川洋歯学部長の挨拶の後、出席者全員の集合写真が撮影された。その後、鏡開きに続いて、金秀樹学生部長の乾杯の発声で会がスタートした。

卒業生たちは恩師や学友、保護者らと6年間の大学生活の感謝や思い出を和やかに語り合っていた。



出席者全員の集合写真

薬学部 第16期 謝恩会

3月10日(日)、卒業証書証書・学位記授与式後、午後6時より、郡山ビューホテルアネックス4階花勝見の間において、薬学部第16期卒業準備委員会の主催による謝恩会が開かれた。

謝恩会準備委員会委員長 星琴美さんの開会のことは、大桶志延理事長、清浦有祐学長、押尾茂薬学部長、島貫大介薬学部同窓会会長の挨拶に続き、鏡開きが行われ、6学年主任の佐藤栄作教授の乾杯で会がスタートした。乾杯の後は、恩師や学友たちと和やかに語り合っては別れを惜しんでいた。



薬学部謝恩会での共同セレモニー

第74回奥羽大学歯学会の開催

第74回奥羽大学歯学会が11月11日(土)にオンラインで開催され、当日は多数の教員、大学院生及び歯学部学生の参加があった。15演題のうち10演題が学位口演であったが、活発な質疑応答と学位論文作成に関する適切な助言もあり、充実したものとなった。学位口演以外では、臨床系3演題と基礎系2演題の口演が行われ、各講座の研究状況を広く伝える機会にもなった。

SD研修会

2023年度第2回SD研修会が、11月17日(金)17:15から17:45までZoomを用いたオンライン形式で開催された。講師は本学歯学部佐藤歩講師で、「学生対応に関わるハラスメント」と題した講演であった。佐藤講師からハラスメントの基本的な知識だけでなく、未然に防ぐための具体的な対応方法について説明していただいた。

ハラスメントは近年問題視される人権侵害であり、本学においても、いかなるハラスメントも容認されない。今回の研修会は、教職員一人ひとりが言動を振り返る機会となり、また学生に対し理不尽な叱責等を行わないための心構えを学ぶことができ、大変有意義なものであった。

能登半島地震被災地における 災害医療支援活動への協力

2024年1月1日に発生した能登半島地震により、現在も多くの方々が避難所での生活を余儀なくされている。本学薬学部医療薬学分野大原宏司准教授は、福島県災害登録派遣薬剤師である松木友治氏（本学薬学部非常勤講師）、安藤尚廣氏（郡山薬剤師会）とともに、2月2日(金)～2月6日(火)の期間、石川県珠洲市にて医療支援に加わった。

現地では、広島県、千葉県および岐阜県の薬剤師会との協働による活動を展開した。活動内容は、DMAT、JMAT、日本赤十字社の救護チームとモバイルファーマシーの連携による災害処方箋の応需、各避難所ラウンドであった。ラウンドでは、避難所の衛生・環境アセスメント、OTC医薬品の適正使用推進と健康相談、災害処方箋医薬品の配送等々、被災者の薬物治療や環境衛生の維持向上を図る支援を行った。被災者の方々からは、「医薬品がなくなりつつあり不安だったが、安心した」、「福島から来てくれたんですね。私たちの気持ちを分かってくれる方々が来てくれるとは心強いです」などの声をいただいた。

珠洲市内はもともと保険薬局が一軒も存在しないことが特徴であり、2月末まで広島県薬剤師会が所有するモバイルファーマシーが常駐し、日本赤十字社の救護チームとの連携による薬物療法の維持・継続を担った。



災害処方箋の鑑査と調剤を確認する松木友治氏



災害処方箋と診療録の内容を確認する大原宏司准教授



災害支援活動所のテント

学長裁量経費の公募

奥羽大学における研究活動をさらに推進するために、2024年度学長裁量経費の公募を行った。今回は、従来の「若手研究」・「基盤研究」に加えて、若手教員の国際学会参加を支援するための「若手教員国際学会参加助成」と、大学院における研究活動をさらに高度化するための「大学院特別推進研究」が追加された。特に「若手教員国際学会参加助成」は、海外留学への第一歩となる国際学会への参加を支援するもので、多数の若手教員から応募があった。採択の結果については、4月上旬に発表される予定である。

自著を語る

『東北本線・常磐線グロットグラム』

本多真史編著 2023年3月刊行



昔から「方言は国の手形」と言われているように、日本語は地域差の大きな言語であり、標準語・共通語では表現し得ないこと・ものが、その地域の言語体系に組み込まれています。そのため、各地域の生活に根ざした方言は、今もなお消えることはありません。まさに、方言は地域の文化であり、心の原風景です。

一方で、近年、マスコミの発達、学校教育等による急速な社会生活の変容・生活様式の変化により、伝統的な方言が崩壊し、共通語化が方言社会に浸透していく様子が全国各地で聞かれるようになってきました。しかし、方言使用が減少したからと言って、それがそのまま共通語化に直結する変化ばかりとは言いきれません。小勢力から大勢力への方言内の変化により、共通語化が進むことに歯止め

がかかっている例もあります。また、共通語に触発されて、方言と共通語とが多様な形で混じり、新しい方言形式を生み出すという現象も現れてきています。

かねてから、方言研究は変化と変異の観点から、それぞれの方言を記述し、方言を比較する方法論を構築してきました。本書の題名にある「グロットグラム」は、日本の方言学のなかで編みだされたもので、語形、音形の空間的、時間的伝播の模様を探ることができます。日本語では、「社会」と言った場合、年齢、すなわち「世代差」が最も有効な指標となるゆえ、グロットグラムは地理的な関係と年齢とをX軸とY軸とで交差させた図として用います。

私は、大学院修士課程在学以降、当該地域における通路の大動脈である東北本線、常磐線両沿線に出向き、1人で調査し続けました。栃木県宇都宮市から福島県福島市までの東北本線沿い22地点、茨城県水戸市から福島県相馬市までの常磐線沿い22地点の計44地点で、世代別調査を行いました。鉄道距離にして東北本線は約160km、常磐線は約190kmになります。約10kmごとに1地点の割合で調査地点を設け、いずれも駅周辺(半径約3km以内)の中心市街で調査を行いました。

並行する2つの線のグロットグラムを同一人が調査、作成して、上記を遂行することは、これまでにない新しい試みです。本書により、関東・東北方言の接触地帯における方言の伝播や衰退、共通語化等の様相を知ることができるばかりでなく、これを基礎資料として、先行研究との対照も可能となります。本書を通して、方言を含む日本語の世界を多くの方に知っていただければ幸いです。

終わりになりますが、本書刊行にあたっては一部、2022年度奥羽大学学長裁量経費(教育研究プロジェクト経費)の支援によりました。本学の清浦有祐学長には、上記の支援の他、深く研究する機会を与えていただきました。ここに深謝の意を表します。

本多先生の労作、図書館の新着図書コーナーに!

本多先生から寄贈していただいた『東北本線・常磐線グロットグラム』は、新着図書コーナーにあります。本書は、東北本線と常磐線の沿線を本多先生がお一人で調査された労作です。調査は協力者のお宅を訪問して、聞き取ったことを記録するという方法で、調査でお会いした方々との思い出やエピソードは数えきれないほどあるそうです。いつの日かそういうお話もお聞かせいただける日を楽しみにしております。本多先生は「方言調査で大切なコミュニケーション力は、人を相手とする医療人にとっても大切なものです。今後は授業の中でも調査の思い出やエピソードを紹介していきたいと思っています」と笑顔で語ってくださいました。

附属病院

自衛消防訓練

昨年12月12日(火)、自衛消防訓練が附属病院で実施され、新規採用の教職員を中心に学内外の約40名が参加した。「15:40頃、病院棟4階東側総合歯科診療室付近から火災が発生し、5階に2名逃げ遅れた者がいる」との想定に基づき、通報・避難・消火の訓練を実施した。臨床講義室北側5階に設置している垂直式救助袋を利用した避難では、参加者が積極的に脱出の訓練にあたった。また、消火訓練では、新人歯科衛生士らが屋外で実際に放水を行い、消火に必要なスキルを体得した。



真剣に訓練に臨む教職員



消火器を使った訓練をする教職員

キャンパスの 風景

卒業の子等の飛びゆく着地点 そこに花咲くたんぽぽであれ 室野英子

緑色濃きキャンパスで学んだ184名が、先ほど本学を巣立ちました。周知の通り、本学は歯学部と薬学部からなる医療系大学です。しかし、歴史を振り返ってみると、1989年～2007年にかけては、文学部が設置してありました。

現在の薬学部棟は、かつての文学部棟に該当します。その一角には「文学部卒業生4,109人」と刻まれた碑があります。当時、文学部は英語英文学科、フランス語フランス文学科、日本語日本文学科の3学科に分かれていました。一時、文学部棟は1700人を超える学生で賑わってもしました。時間を見つけて友達と福島県内を散策したり、食堂に集まっては故郷や部活の話、ずっと気になっているあの学生の話などをしたりと、些細な会話で盛り上がる事が多くありました。文学の世界では、こうした体験が喜びを共有し、失意の時には元気を与えてくれることがあります。

歯学部と文学部が共存していた時代、「本の虫は、歓迎します。菌の虫は、退治します。」という看板が構内に掲げられていました。人生において、「その人の生き方を変えてくれる」ものは、「人との出会い」と「素敵なお本との出会い」だと聞いたことがあります。素敵なお本と出会うことで、知識はもちろん、「教養」も身につきます。人生で困難に直面した時、教養は、助けてくれる人や情報にたどりつく道標となります。教養を身につけることにより、バランスの取れた行動ができ、社会的に信頼される人にもなります。どの時代においても、教養は人生のさまざまな局面で強力な武器となってくれます。これを踏まえ、本の虫が歓迎されるのも大いに共感できます。

学部はなくなっても、文学部に在籍した皆さんが奥羽大学で学び、そして巣立って行った事実は消え去るものではありません。十分に教養を兼ね備えている文学部卒業生の皆さんは、飛んで着地した地面に咲いているたんぽぽの花のような人であってほしいと願います。あの時、芝生の片隅に咲いていたたんぽぽは、命を紡いで、今も優しく咲いています。

(撮影・文 本多真史)



「文学部卒業生碑」

ちょっと寄り道! 記録媒体の変遷

文字がなかった時代、人間の思想や感情を伝えるためには、記憶に基づいて、人から人へと語りつぎ伝承されねばならなかった。日本の『古事記』の成り立ちはその良い例である。語り部である稗田阿礼ひえだのあれの記憶を頼りに太安万侶おおのやすまろが筆録せんしんしてできあがった。近年においても、アイヌ民族に伝わる口承文芸であるユーカラは、金成まつ筆録、金田一京助訳注により『アイヌ叙事詩ユーカラ集』全9巻として出版された。外国においても『イソップ物語』や『イリヤスとオデッセイ』などの伝承文学がある。

記憶を頼りに口から口へと語り継がれたものは、長い間に変形され、最初の情報とは異なるものになることを、我々はしばしば経験するところである。

文字はこうした不便さを解消し、記憶を客観化し、情報を蓄積するために考え出された。文字が作り出されると、さまざまな媒体物に文字や絵による情報が記され、蓄積され、伝承された。

人間の思想や感情を伝達する手段として考え出された図書は、時代や場所によりさまざまな伝達媒体に書き記された。エジプトにおけるパピルス本、メソポタミア地方の粘土板の図書、小アジアのペルガモンで発展した parchments の図書、そして中世の暗黒時代に羊皮紙の冊子本へと多様である。一方、中国で発明された紙は、約1000年の長旅を経て西欧に伝播し、グーテンベルクによる活版印刷術の普及を促し、我々が手にしている図書の形態へと進んで行く。今日、電子的手法による図書は、すでに利用に供されているし、未来の図書はさらなる科学技術の発達により、さまざまな記録媒体を生み出していくであろう。しかし、メディアは変わっても、人間はもともと情報の発信を欲望しているので、何らかの形で図書は生産されていくであろうし、図書館も存続していくであろう。(A)

歯学部卒業生の教授就任

奥羽大学歯学部第18期卒業生の天野カオリ氏が、昨年の12月1日付で神奈川歯科大学歯学部解剖学講座の教授に就任した。歯学部卒業生で他大学教授に就任したのは、以下のように天野氏を含めて4人だが、女性では初となる。

安彦 善裕 氏	9期生	北海道医療大学歯学部教授	臨床口腔病理学
櫻井 孝 氏	11期生	神奈川歯科大学教授	歯科放射線学
天野カオリ 氏	18期生	神奈川歯科大学教授	解剖学
両角 俊哉 氏	21期生	日本歯科大学新潟生命歯学部教授	歯内療法学

同窓会だより

深沢 康宏 (山梨県支部 歯学部24期生)

皆様ご無沙汰しております。歯学部同窓会山梨県支部についてご報告させていただきます。会員は1期から34期まで25名が所属しております。奥羽大学からは遠く離れているため会員数は少ないのですが、会員のご子息も本学に在籍しており会員数の増加を願うばかりです。偶然にも世代の片寄り無く、懇親会では奥羽大学(東北歯科大学)や周辺地域の移り変わりについて切れ目なくお話を伺うことができます。会員の現職ですが、山梨県に歯科大学がありませんので主に開業医とその御家族です。

具体的な活動内容に関しましては、定期総会、忘年会、学術講演会となります。コロナ禍以前になりますが、2017年10月21日に奥羽大学歯学部口腔外科学講座歯科麻酔分野の山崎信也教授に「日帰り全身麻酔の臨床活用」についてご講演いただきました。また、2018年10月20日には山梨県支部所属の「おぎの歯科・矯正歯科クリニック」院長荻野久先生(7期生)から「唇顎口蓋裂の治療の流れ」についてご講演いただきました。この場をお借りし、講師の先生方に改めて御礼申し上げます。次回から、同窓会は元より、外部からも講師の先生方をお招きし、コロナ禍で培ったオンラインを併用したハイブリット型での学術講演会(山梨県は交通の便もあまり良くないため)を考えております。

山梨県支部は前述させていただきましたように小規模ではありますが、その分結束力も高く、疾病などで診療困難となった会員への協力や、定期的に行われるゴルフコンペなど多くの先生方にご協力、ご参加していただいております。昨今、私どもの課題といたしましては、終身会員制度の制定や、新たな福利厚生制度、地元で開業を予定されている同窓生のサポートなど検討しています。

これからも、対面でお会いする機会の難しかった時期を経験として、また新たな活動様式も考えながら、できるだけ有意義な活動を行うことが同窓会の発展や継続につながると信じ行動していきたいと思っております。今後も皆様のご協力をよろしくお願い致します。

同窓生のひろば

森本 郁夫 (歯学部13期生)

私は歯学部13期卒業の森本郁夫と申します。この原稿を依頼されて1年の猶予がありましたが、私らしくギリギリになって書いております。まずは卒業後の今日までを簡単にお話します。

平成2年に大学を卒業してから、5期今間司先生、3期西村将一先生からご指導を賜りました。平成6年に地元の高知で開業して30年が経ちます。その間に、18期佐々木英明先生、20期谷慶人先生、野田拓聖先生、24期戎井直子先生とご縁があり、私の診療所で一緒に働く機会がありました。

次に、同窓会の高知県支部についてお話します。高知県には13人の会員がいます。年に1回集まり、近況報告を行っています。昨年は長年同窓会を引っ張ってこられた7期橋村忠明先生から10期斉藤薫子先生に代表の交代がありました。高知で同窓生の講演がある時は、全員でおもてなししたいと思います。

次は、私が在学時に所属していたバスケットボール部のお話です。2年前までバスケ部にはOB会がありませんでしたが、12期千葉豊和先生、17期池田寛先生が中心となり、今でも交流のある元バスケ部員に声をかけてOB会を発足しました。まだ小さな集まりですが、今年の1月に同期の北村和典先生が還暦を迎え、そのお祝いを青森で行いました。バスケが弱くてもお酒の席では負けなかった世代、バスケが本当に強かった世代も、懐かしい部活の話で夜中の3時まで盛り上がり、楽しい時間を共有しました。

私も来年には還暦を迎えます。先日、右目がかすむので周りに網膜剥離かもしれないと脅されて眼科に行くと、「白内障が始まっていますね」と言われてショックを受けました。いつまで健康で過ごせるか分かりませんが、18歳で大学に入学してから続く奥羽大学同窓生との関わりはありがたく、これからも大切にしていきたいと思っております。



2024年 北村氏還暦祝いにて



奥羽大学歯学部同窓生との交流

穴沢 亜紀 (旧姓 佐藤)
(文学部9期生)

23年前に本学を卒業して以来、多種多様な仕事を経験して現在注力している事は、主に次の3つです。

1つ目は、アメリカ好きが高じた結果、屋号を『Want To』としてキッチンカーでアメリカンバーガーを販売する仕事です。喜多方市を拠点にイベント等で県内各地に出向いています。

2つ目は、地元の公民館で子供向け、大人向けの英会話教室を開き、英語は簡単で楽しい、という事を伝えています。4月からは会津地区の中学校英語非常勤講師として広く指導ができる機会が増えることになります。

3つ目は子育てです。3人の子供が私を超えてくればいいな、と思っています。長女は現在医学部医学科に在籍し、地域医療を支える医師を目指して勉学に励んでいます。長男は高校2年時に1年間のメキシコ留学を経験して、スペイン語と英語の同時通訳ができる語学力と国際人として活躍できる感覚を身につけ、現在は大学受験に挑んでいる最中です。次男は今夏からアメリカへ留学予定なので、そこで可能性を広げて沢山の選択肢を持つ青年に成長する事を期待しています。ルックス

の良さを才能の1つとするならば、彼はそれを持ち備えているのではないかと親バカの私は考えています。こうしてみると、既に3人がそれぞれの努力と才能で私を超える人間に育ってくれている、と思います。

そんな私が人生を歩む中で大切にしている事が2つあります。

1つは、「やりたい事は全てやる」ということです。学生時代には、まさかキッチンカーでハンバーガーを売る未来が待っているとは想像もしませんでした。中学校で英語を教える事も同様です。大小関わらずやりたいと思うことを1つ1つやってきた結果が今に繋がっている、と思います。これからもやりたい事には躊躇せず、今は想像もつかないような未来をワクワクしながら待ち望んでいます。

もう1つは「自分の幸せを一番大切にすること」です。自分が幸せでなければ誰かを幸せにする事はできません。バーガーのお客さんや、英語を学びに来る方々、3人の子供達を大切に思うからこそ、自分を大切に、自分が幸せである必要があるのです。

45歳の人生の折り返し地点にたった今、改めて自分を大切に、益々やりたいことをやってみよう、と思っています。



『Want To』のキッチンカー

穴沢さんお手製の
アメリカンバーガー

人 事

<採用>

田母神 盛一 技術職員 総務部 10月1日付

奥羽大学報176 (通算 第301号) 2024年3月29日発行
発 行 奥羽大学
学報編集委員会
委員長 清浦有祐

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
電話 024 (932) 8931(代) FAX 024 (933) 7372
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
メールアドレス info@ohu-u.ac.jp

最大6年間
学費
フルサポート
返納義務無し

給付型 特待生 制度

キミのやる気と実力を存分に活かしてほしい。
医療人としての人生をここから始めよう。
人間性豊かな歯科医師、薬剤師になるために。

歯学部

薬学部



奥羽大学 歯学部 薬学部

TEL. **024-932-9055** (歯学部)

TEL. **024-932-8995** (薬学部)

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
FAX. 024-933-7372 E-mail: info@ohu-u.ac.jp

奥羽大学 検索 www.ohu-u.ac.jp

奥羽大学 東北歯科専門学校
姉妹校

歯科衛生士科 歯科技工士科